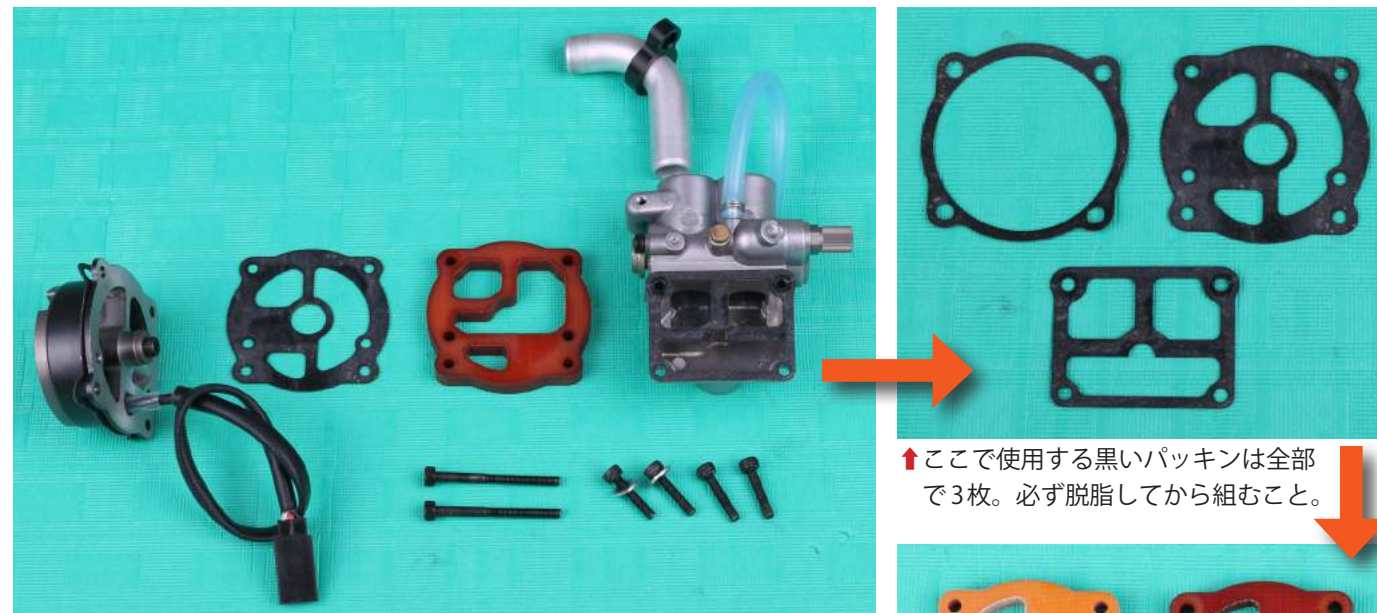


エンジンのリヤカバーを分解して順番にパッキンを入れ替えていこう!

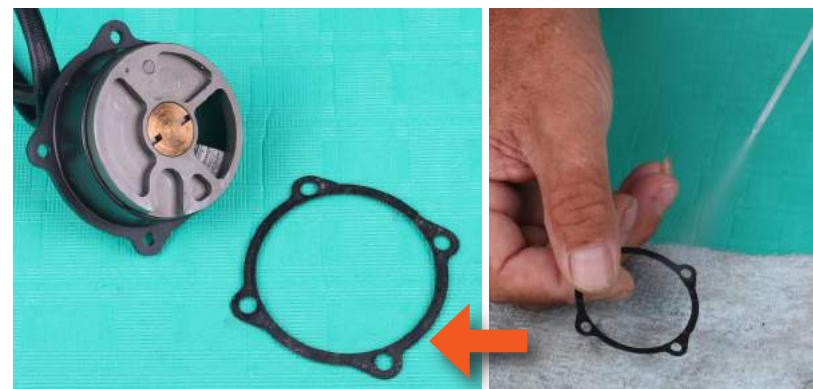


↑エンジンのリヤカバーからキャブレターにかけて分解した状態。1つ1つのパーツを組み付けながら、それぞれのパッキンを順番に交換をしていこう。

↑ここで使用する黒いパッキンは全部で3枚。必ず脱脂してから組むこと。



↑ベーク製のインシュレーター。写真左が新品で、右が分解したもの。長い間使っていると部品が引けてしまうことで「隙間」が生じ、空気を吸い込み調子が悪くなることがある。変色に関しては問題ないが、痩せた感じがすると感じたら交換すべきである。



↑「黒いパッキン」と「リヤカバー」をそれぞれパーツクリーナーで脱脂して、「リヤカバー」に「パッキン」を組んでエンジンに取り付ける。

クランクシャフトのピンは、間違いなく「U時型」の溝に入れること



↑「リヤカバー」に「パッキン」を組んだ状態。↑分かり易くするために別のシャフトを用意して撮影したもの。矢印のように四隅の「穴の位置」を確認しておこう。シャフトのピンをバックプレートの「U字型」の溝に入れて組み込んでいくこと。



ティッシュペーパーにパーツクリーナーを付けて金属部も拭き取ること。

↑↑パッキンなどをパーツクリーナーで脱脂して組んでいくのだが、脱脂する目的は、油漏れでできてしまった「オイルの道」を完全に消去するためである。とにかく、キレイにしてから組むことが最低限必要である。



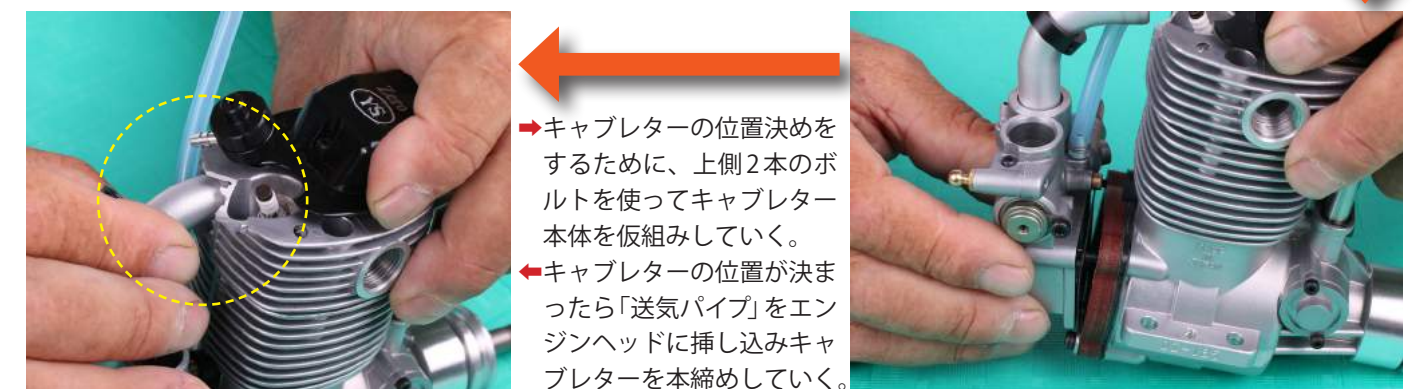
ワッシャーを必ず付けてボルトを締めること。

↑リヤカバーの後部パーツは6本のネジで固定されるが、この時点では一番下側の2本のネジで動かない程度に締めておく。

↑パッキン⇒リヤカバー⇒パッキン⇒インシュレーターの順番で、エンジン本体に組み込んでいこう。



↑↑これから「キャブレター」をエンジンに組んでいくが、ここもパーツクリーナーを使って金属部分とパッキンの脱脂を行っておく。



↑キャブレターの位置決めをするために、上側2本のボルトを使ってキャブレター本体を仮組みしていく。

↑キャブレターの位置が決まったら「送気パイプ」をエンジンヘッドに挿し込みキャブレターを本締めしていく。

※パーツクリーナーは「Oリング」などのシリコン製品を傷めてしまうので、取り扱いには注意が必要!